

小学校 社会科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 気候の特徴と住まいの特徴に着目して、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫を考え、グラフや写真などの資料と関連付けて説明することができる。

思考力、表現力の育成

- 学年 第5学年
- 単元名 自然とともに生きる人々
- 本時の目標 広島県の気候と沖縄県の気候を比較することにより、沖縄県の気候の特徴をとらえる。気候の特徴に合わせた沖縄県の住まいの工夫について考える。
- 学習の流れ（4時間目／全9時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1 沖縄県の位置を把握し、学習課題を確認する。	・前時までに学習した旭川市の気候と暮らしの工夫を確認するとともに、沖縄県の人々に暮らしに興味をもたせる。	
沖縄県の気候について調べ、そこに住む人々の気候に合わせたくらしのくふうを考えよう。		
2 グラフから那覇市の気候の特徴をとらえる。	・那覇市の気候のグラフと広島市の気候のグラフを比較させながら、那覇市の気候の特徴をつかませる。	・那覇市の気候の特徴を読み取っている。〔観察・資料活用技能〕（発言）
那覇市と広島市の月別平均気温のグラフ→那覇市は暑い時期が長い。 那覇市と広島市の月別平均降水量のグラフ→那覇市は降水量が多い。 (特に8月の降水量が多い。)		
地域別の台風の接近回数	のグラフ→沖縄県は台風の近づく回数がすごく多い。	
3 沖縄県の伝統的な家の写真から家の特徴をとらえ、気候の特徴との関係を話し合う。	沖縄県の家は、気候の特ちょうに合わせて、どのようなくふうがされているのだろうか。	
4 課題に対応した振り返りを書く。	・フォーマットを活用し、学習した内容を振り返らせる。	・気候のグラフと家の特徴を関連付けて、長く続く暑い時期や台風などの自然に適応した沖縄県の人々のくらしの工夫を考え説明している。〔社会的な思考・判断・表現〕（発言・ノート）

言語活動の充実

指導のポイント

個の考えを明確にするためにフォーマットを活用させる

- フォーマットを提示することで、短時間で必要なことだけを書かせることができます。また、この活動により、考えの根拠が明確になるので、後の説明し合う活動がより充実したものになります。
- 自分の家やその周辺の家と沖縄県の家を比較して考えさせるようにします。

【フォーマット】

沖縄県の家は、
それは、
だからです。

沖縄県の家は、2階建てが少ないです。
それは、沖縄県には、よく台風が来るからです。

思考を深めるための発問を工夫する

- 児童の発言を取り上げ、沖縄県の家の特徴と気候の特徴との関係をより深く考えさせるための発問を行います。



なぜ、よく台風が来るところでは、2階建てが少ないのですか。

それは、よく台風が来るところは、風の被害を受けやすいので、家を低くして風を受けにくくしているからだだと思います。

根拠や解釈を示して説明させるためにグラフや写真を活用させる

- 沖縄県の家と気候の特徴の関係を考える際に、グラフや写真を活用させることで、児童は自分の考えを根拠をもとに論理的に説明することができ、話し合いにおいて、考えを深めることができます。また、グラフや写真（視覚情報）を提示しながら話し合い活動をさせることで、着眼点がはっきりし、話し合いのポイントが明確になるため話し合いが活性化します。その際、事象と事象とを比較したり関連付けたりしやすいように板書を工夫することが、話し合いの支援として有効です。



（防風林を指差しながら）ここにあるように、沖縄県の家は、家の周りに木を植えています。それは、（台風の近づいた回数を示すグラフを指差しながら）このグラフにあるように、沖縄県は台風が多いので、木を植えて、台風の風を少しでも防ごうとしているのだと思います。

新学習指導要領では

考えたことを表現することを一層重視

- 今回の改訂では、能力に関する目標（各学年の目標(3)）において、これまでの「調べたことを表現する」が「調べたことや考えたことを表現する」となり、「考えたことを表現する」ことが一層重視されています。
- 本事例では、学習活動3の話し合いで児童の発言に対して、なぜそのように考えたのかを問い返します。そうすることで、児童は事象と事象との関連をより深く考えるようになります。また、本事例のように板書（資料）を用いて考えたことを説明させることが大切です。それらを繰り返すことで、考えたことを根拠や解釈を示しながら、自分の言葉で説明できるようになります。